

(様式1)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立(積志中) 学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

活動計画に基づいて学校運営協議会としての取組の具体化を進める

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

第4回学校運営協議会では、令和6年度の学校運営の基本方針の説明を受けた後、熟議の冒頭で中学生の地域での様子、学校生活の様子などについて情報交換しながら、積志中の生徒の実態と課題、これからの学校教育に期待することなどについて委員間で共有することができた。それに対して、校長が学校経営の柱として掲げる「3つの充実(授業、集団活動、体験活動)」は、非常に有効な手立てであるという意見が多く委員から出された。また、校長が掲げる学校スローガンに対しても、「令和2年度からここまで積み上げてきた成果が見えるだけでなく、学校の目指す方向性が生徒の中にも浸透してきていることは生徒の姿から感じることができるので、次年度もさらなるステップアップを期待したい」という意見が委員から出された。それらの意見に対して校長から「さらなるステップアップのために具体的な手立てを考えていく」という回答を受け、次年度の学校運営の基本方針を承認した。

以上のことから、学校運営協議会として、学校運営の基本方針について十分な熟議をおこなうことができたと考える。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

昨年度の学校運営協議会の中で計画された「学習支援」「学校行事への支援」の取組は、校長が基本方針の中で掲げる「3つの充実」のうち、「授業の充実」「集団活動の充実」につながる取組として位置付け、熟議を通して具体化を図った。その結果、取組を実現させることができ、積志中学校運営協議会としても大きな一歩を踏み出せたと感じている。

以上のことから、学校運営協議会として、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて十分な熟議を行うことができたと考える。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

学校運営協議会の取組について情報発信するために、今年度はCSだよりを4回発行し、学校HPに掲載した。しかし、CSだよりの存在に対する周知が十分ではなかったことがわかったので、周知を図る方法については今後の課題と考える。また、今年度行った具体的な取組については、地域の回覧板やさくら連絡網を活用したり、告知用のポスターを作成して協働センターや校区の高等学校、大学に掲示したりしたことで、多くの反響と協力を得ることができ、取組の実現につながった。それについては十分な情報発信ができたと考える。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

昨年度に計画した取組を具体化させていくことを今年度の目標としていた。いずれの取組についても熟議を重ねていく中で、具体化を図って実現し、大きな成果を得ることができたため、目標をおおむね達成することができたと捉えている。しかし、これらの取組を場当たりのものではなく、地域に広く浸透し、今後も継続的に行われるようなものにしていくことが重要であると考えている。そして、今年度の取組を通して、地域と学校、地域と中学生をどうつなげていくのかという視点をもつことが大切であると感じた。そこで、次年度は今年度の取組で表面化した課題に対する改善を図り、よりよい取組へとさらに発展させていくことを目指したい。さらに、地域と中学生をつなげるために「防災」という視点での取組を計画したり、「部活動の地域移行」に関する取組を今年度よりさらに前進させたりすることを考えている。また、校区内の他の協議会と交流する場を設定し、互いの取組を共有するだけでなく、協働する方法も探していきたいと考えている。

積志中学校運営協議会としては、来年度以降も取組を一つずつ着実に具現化していき、地域が学校を支える土台をつくることを目指して、地域への積極的な情報発信、学校と地域がより密接に連携するための体制づくりをしていきたいと考える。